

第 35 回歴史探訪の会ご報告

開催日 平成 25 年 7 月 18 日

場 所 高野山

お 話 西南院 ご住職

「開祖 1200 年に迫る高野山を訪ねる」

高野山は平安時代のはじめ、弘法大師空海によって開かれました。

海拔 1000 メートルの山上に広がる、東西 6 キロ、南北 3 キロの盆地で、蓮の花のような地形をしています。

こんな真言密教の地、高野山と弘法大師について今回バスで探訪、学びました。



バス中 1



バス中説明

「弘法大師空海」

- ・現香川県の善通寺（四国 88 ヶ寺 75 番札所）で生誕

土佐の室戸岬、御厨人窟（みくろど）で修業、洞窟の中からは空と海だけ、
法名を空海と名乗りました。



空海修行の場

- ・ 804 年留学期間 20 年の約束で唐にわたる（遣唐使）その時、のちの延暦寺の開祖、最澄らと共に 4 船に分乗、2 船は遭難するも運よく辿りつく、唐の長安で師恵果に真言密教を学ぶ。そのほか、土木技術、薬学等多分野に知識をつけ、2 年で帰国しました。

「高野山の開祖」

- ・ 816 年嵯峨天皇より高野山をさずかり、真言密教の聖地とする、高野山はここから始まりました。大自然に囲まれたこの地を永遠の瞑想の地（入定）と決めました。高野開祖以来多くの仏像ほか収蔵物が霊宝館に展示公開されています。



霊宝館



霊宝館内部



仏像

弘法大師は書家・文人、先に述べました土木、薬学、自然科学等に長けていて、多くの伝説、伝承が全国各地の多岐にわたります、聖水・岩石・動植物、特に弘法水に関する伝説が数多くあります。泉がわく、井戸水が出た、池が出来た、温泉が出た等。

「西南院」

弘法大師の高弟 真然大徳によって開基された寺で大石庭が美しい、玄関前までバスが直接入れる立派なお寺です。



西南院



西南院内



大石庭

歴史探訪の会は、ここで精進料理の昼食を頂き、ご住職の高野山と真言密教についてお話しを拝聴、概略をVTRでみて、解りやすく説明いただきました。



昼食前



精進昼食



ご住職話

仏教・キリスト教が国を超えて広がっていくお話

仏教と密教のそれぞれの考え方

仏教は經典の教えを唱えて浄土に導く、人を癒す

密教はお釈迦様の修行、実技が入ってくる、成願成就、仏像に手が沢山ある、ご祈祷をする。

最後に時代によって少しずつ教え方に違いがある、高野山も厳しい時代があった

一人も入山してこない時が 100 年ぐらい続く、経済活動なし、それでも地道な活動で復活した、シャープもこの苦しい時を乗り越え成長することを期待しています。

さすが、シャープの供養廟を管理して頂いているお寺だと感服いたしました。

其のあと奥の院弘法大師御廟に御参りし、最後にシャープ供養廟に御参りして帰路に着きました。



奥の院へ



奥の院入口



奥の院に



集合写真